

# インターアクト年次大会報告

インターアクト委員会 委員長

**松井隆雄** (大阪天王寺RC)

2013年11月23日(出国民の祝日である勤労感謝の日、四天王寺高等学校・中学校 和光館で福家 宏G、岡部泰鑑PG、泉 博朗GE、立野純三GN、岩津陽介地区研修委員、西本健二地区青少年活動委員長、久保良誓地区ローターアクト委員長をお迎えして、四天王寺高等学校・中学校インターアクトクラブがホストクラブ(スポンサークラブ 大阪天王寺RC)となり開かれました。

参加者はインターアクター101名、顧問16名、保護者3名、ロータリアン29名、特別ゲストとして青少年交換来日学生2名、ローターアクト6名の総勢165名の参加を得て盛大に行われました。

年次大会は当2660地区の6校(大阪桐蔭、浪速、金光八尾、四天王寺、清風、相愛学園)のインターアクトクラブ合同で行う最大のプログラムであります。

当日のメインテーマ「One for all and all for one」～ひとりみんなのために、みんなはひとりのために～であります。

6校の参加インターアクトクラブから本年度の活動報告の後、早稲田大学大学院専任講師の西條剛央(さいじょうたけお)先生に「シンプルで本質的なリーダーシップとは？」(構造構成主義の考え方の一つ)と題して講演をしながらA～Pにグループ分けしたインターアクターに「リーダーシップとは」と質問を投げかけグループごとに討論ワークして、各グループで集約して代表して発表して貰い、それについて西條先生のコメントがなされた。グループワークを通じ「リーダーシップの本質」について理解を深められていった。

西條先生は宮城県仙台市の出身で心理学と哲学の専門であります。

ボランティアの経験をされたことがないのに2011年3月11日に起きた東日本大震災の復興支援に早く立ち上がり、独自の理論「構造構成主義」を駆使し日本最大級の支援組織「ふんばろう東日本支援プロジェクト」を創られ、現在その代表をされています。

人を助けるすごい仕組みの中でも「物資支援プロジェクト」は行政や外の支援団体から支援が受けられなかった膨大な物資を避難所や仮設住宅等へ支援された。このような仕組みを考えられた根底には人に対する思いやり、人に対する優しさの心があったからですが、この



ようなプロジェクトを支えている構造構成主義のもう一つの考え方である「方法の原理」についてテーマを与えられグループワークをして貰ったが、時間の関係でグループごとの発表はなく先生の体験を通じての哲学的話であった。方法の有効性は①状況と②目的から規定からされる。という考え方であった。そのためにもどいうやり方がいいか判断する際には、この2点から勘案すればよいと「自分にむいている方法と、むいて無い方法がある。まねしてもうまくいかない、自分に合わないことがある」「全ての価値は欲望・目的・関心との相関関係にある」

西条先生は前例を重んじる堅い文化の行政では考えられない「柔軟な文化」を持って支援組織を作り運営されていると感じました。

何時起こるかも分からない大震災に遭遇したとき、どのような行動をとるべきか、またリーダーシップを発揮し被災した人々を救援し、支援できるか、そのためには日々考えて行動すべきであることをインターアクターに投げかけられた思いがしました。ロータリーはインターアクトクラブの目標としてインターアクターに対し建設的な指導力を養成し、自己の完成を図ること、人に対する思いやりと、他人の力になる心構えを奨励し、これを実践することを掲げています。

本日の年次大会がこの目標に向かって大いに役立ったと確信しました。

インターアクターにとって有意義な一日となりました。

最後になりましたが、本日のため長きに亘って準備して頂きました四天王寺高等学校・中学校インターアクトクラブと顧問の岡 宏治、野口 弘、三井淳子、松本真奈先生方に厚くお礼申し上げます。協力頂きました大阪天王寺RCはじめ当地区関係ロータリークラブの皆さまに感謝いたします。

今後ともインターアクトに対し、ご支援とご協力をよろしくお願い致します。